

5 「家庭の日」を尊重しましょう

栃木県は、栃木県青少年健全育成条例第11条において「家庭の日」について定めています。

家庭は、最も大切な家族のよりどころであり、青少年が基本的な生活習慣や規範意識の基礎を身につけ、人格を形成する上で大きな役割を担う大切な場です。

そこで、家族みんなが話し合う機会をできるだけ多く持つことにより、絆を深め、明るく楽しい家庭づくりを進めるきっかけとするために、県では毎月第3日曜日を「家庭の日」と定めています。（栃木県HPより）

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c07/life/seishounen/seishounen/kateinohi.html>



家庭の日

家族みんなで過ごす時間をつくって、楽しい団らんの時間の過ごし方を工夫してみましょう。

また、団員が家族と過ごす時間を、指導者として尊重できているかどうか、練習や試合を入れないなどの具体的な方策をとっているかどうか、ふり返ってみましょう。

参考文献

- ・スポーツ少年団の理念（第1版） 日本体育協会 1964年
http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data0/club/data/pdf/shonen_e5.pdf
- ・スポーツ少年団「理念」の再確認と今後のあり方について 日本体育協会 1992年
http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data0/club/data/pdf/shonen_e6.pdf
- ・スポーツ少年団の将来像 日本スポーツ少年団 2009年
- ・提言 子どもを元気にする運動・スポーツの適正実施のための基本指針 日本学術学会 2011年
- ・未来にはばたけ ～那須地区の小学校における部活動・スポーツ少年団活動の手引～
那須地区市町教育委員会連合会 2012年
- ・望ましい児童のスポーツ活動の指針（改訂版） 栃木県教育委員会 2013年
- ・ガイドブック スポーツ少年団とは 日本体育協会 日本スポーツ少年団 2016年



塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課

TEL:0287(43)0176 FAX:0287(43)0535

スポーツ少年団活動に関するリーフレット

Let's Enjoy Teaching!

～子どもたちの笑顔のために～



スポーツ少年団の活動内容は、実に多岐にわたります。

このリーフレットは、スポーツ少年団活動に携わる方々にお読みいただき、スポーツ少年団の理念や、指導されているスポーツ少年団の活動内容等をふり返るきっかけとしていただくために作成しました。

1 これが原点！「スポーツ少年団の理念」

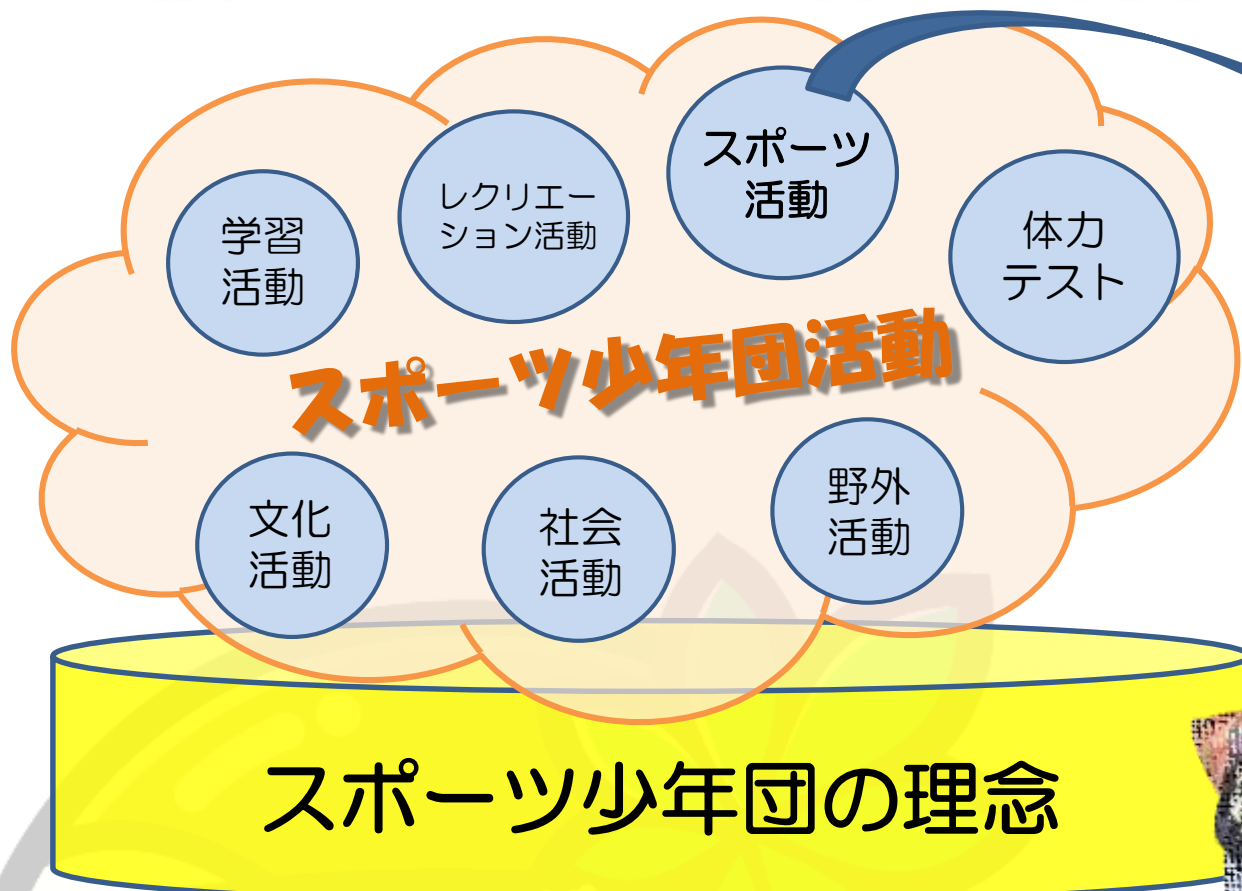
Check!

- 一人でも多くの青少年にスポーツの**喜び**を提供する
- スポーツを通して青少年の**こころとからだ**を育てる
- スポーツで人々をつなぎ、**地域づくり**に貢献する

スポーツによる青少年の健全育成につながります！

栃木県教育委員会事務局塩谷南那須教育事務所

2 幅広い！スポーツ少年団の活動分野



Check!

主活動ではありますが、スポーツ活動のみではなく幅広い活動が求められます。



4 チェックリストで指導をふり返ってみましょう

- 発育発達期のスポーツ活動は、生涯スポーツの基礎づくりの活動であることを意識して指導している。
- 個々の発達段階や個人差に応じて指導している。
- 科学的根拠をもった指導を積極的に取り入れている。
- 常に安全面に気を配って指導している。
- あいさつやマナーの指導を大切にしている。
- 子どもたちのミスを責めるより、できたところや伸びたところをほめるよう心がけている。
- 1日2～3時間程度、週に2、3回の活動になるよう、活動計画を立てている。
- スポーツ活動だけにこだわらず、文化活動や社会活動など様々な活動に積極的に取り組んでいる。

3 栃木県の課題を把握しましょう

○ 体育の授業以外に「ほとんど運動をしていない」子どもが多い。

Check!

運動する子、しない子の二極化が見られます。

○ 過度のスポーツ活動による弊害が見られる。

- 発育や発達特性を考慮しない活動
- スポーツ障害やバーンアウト、運動嫌い等の原因に。
- 長時間の活動や多すぎる試合数

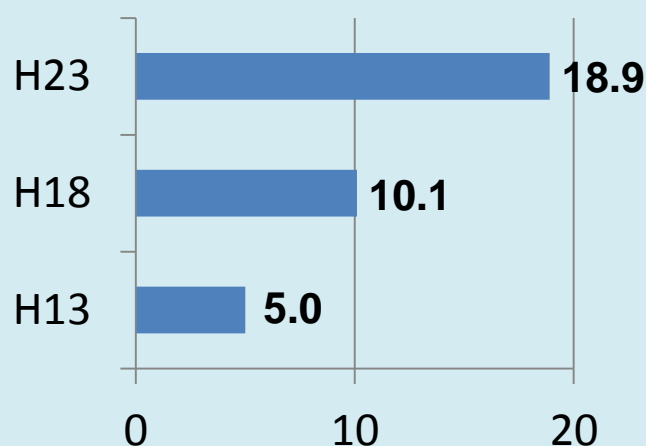
家族も巻き込んで、バランスのとれた生活ができなくなる。

単位団活動の目安(『スポーツ少年団とは』より)

1日2～3時間程度、1週間に2、3回が 無理のない活動

平日の活動も、長時間になる傾向がみられます。

平日のスポーツ活動時間が3時間を超える児童の割合(%)



出典：望ましい児童のスポーツ活動の指針（改訂版）

Check!

- ・ 平日における長時間の活動の増加
- ・ 大会で勝つことを重視した指導（競技スポーツ偏重の指導）
- ・ 経験と勘に頼った指導
- ・ 「質」より「量」を優先した指導 など…

「スポーツ活動による弊害」は、子どもに無理を強いているということが大きな原因になります。

また、指導者は、たとえボランティアであっても法的・社会的責任を負うことを自覚し、自己の研鑽に努める必要があります。